

ロ米停戦協定が崩れ、シリアの市民の死が急増

【訳者注】シリアにおいてアメリカは、初めから停戦などするつもりはなかったという話である。市民が狙われることに注目すべきである。NHK ニュースは、ロシア/シリアが病院を狙ったという非常に疑わしい事実を宣伝していた。しかし悪辣、狂気、残忍、愚かさというアメリカの末期的イメージは、今ますます定着しつつある。

最後に引用した読者のコメントをぜひ読んでいただきたい——「アメリカはシリアに何の用もない。シリアのどんな米軍も国際法に違反している。ロシア軍は認められた合法的政府の要請によってシリアにいる。」この基本的な事実を、我々は忘れるように仕向けられている。(4/2「フィリップ・ハモンド英外相の狂った〈国際基準〉」参照。)

Thomas Gaist

May 1, 2016



35 人の子供を含む 200 人以上の市民が、今週、シリア全土に軍事的暴力が発生して殺された。これは 2 月に、アメリカとロシアの外交官の間で約束された停戦合意を、完全に破るものだった。

この繰り返した戦闘は、すでに 40 万人以上を殺した戦争を更に新しく煽ったもので、シリアを社会的崩壊の状態へとさらに深く突き落とした。国連の人権監視官 Zeid Ra'ad al-Husseini によれば、最近、安全保障の「破局的な悪化」が起こっているなかで、シリア全土の暴力は、「敵対行動の中止以前のレベルに舞い戻っており」、軍事行動は、一般市民に対し

て「悪魔的な無視」を示している。

シリアの社会および医療インフラは、アメリカ指導による 5 年以上に及ぶ政権転覆戦争によって、崩壊している。「シリアの救急車は、そのほとんど半数が破壊されており、病院の 3 分の 1 以上がもはや機能していない。医薬品の輸入の流れは、しずくが垂れる程度に落ち込んでいる」と、災害疫学研究センターの Debarati Guba-Sapir は、金曜日に語った。

人権医師団によれば、346 以上の医療施設が、シリア戦争の間に攻撃にさらされた。水曜日には、国籍不明機の空爆が、「国境なき医師団」につながるアレッポの al-Quds 医療センターを破壊し、少なくとも 50 人の市民と 2 人の「医師団」の医師を殺した。米ロ双方の軍事スポークスマンとも責任を否定した。

暴行の激しさはアレッポに集中しており、約 25 万人の市民が包囲された状態にあつて、すでに 5 年間の戦争によって大量死の出た廃墟の中で生活している。アメリカの支援する“イスラム主義”軍団に支配されている、たった一つ残った商業用通路が、この都市をこの国の残りの都市と連結していて、いま市民たちは、武装ヘリと砲兵隊のステップアップした攻撃にさらされている。

アメリカのメディアと、ロシアがシリアに介入したという、政治体制の際限のない弾劾とは対照的に、停戦の崩壊と、市民への全面的な代理戦争への後戻りの本質的な原因は、アサド政権を転覆し、死命を制するロシア・イランとの地域同盟を覆して、アメリカの傀儡に置き換えようとする、米支配階級の妥協しない決意である。

月曜日、ホワイトハウスは、少なくとも 250 米特殊部隊の兵士をシリアに配備すると通告したが、この決定は、200 の米地上部隊のイラクへの追加配備と相前後するものだった。

木曜日の上院兵役委員会の証言として、Ashton Carter 米防衛長官は、これらは、もっと幅広い戦争計画の予備的な動きにすぎないことを明らかにした。

「これまでの成果を踏まえて、そして ISIL の続いている敗北を更に加速させるために、我々は軍事キャンペーンの“次の手”を打とうとしている」とカーターは話した。

次の数週には、米支援を受けたイラク国軍が、モスル市北部への彼らの攻勢を援護して、「アパッチ攻撃ヘリコプターをテコ入れする」であろう。モスルでは、数百の米海兵隊がすでに、周辺の村に対する砲撃を実行している。

シリアでは、米コマンド（特殊奇襲部隊）が作戦基地を建設しつつあり、これによって、ヨーロッパやペルシャ湾の米同盟政府による、更なる特殊作戦の展開が可能になる。彼らは「特にスンニ派のアラブ社会の中に、動機をもった、地方の反 ISIS 部隊を訓練して装備させる」ことを狙っている、とカーターは話した。

イラクとシリアを超えて、アメリカは、さらに南や東南アジア、イエメンや西アフリカなどにおいて、幅広い“反 ISIS”作戦を用意している、とカーターは言った。

アメリカ軍の狙いは、「モスルとラッカを掌握する ISIL を崩壊させるために、米軍の総力をあげてそれらを支持すること」だとカーターは話した。

ペンタゴン（米国防総省）は、ホワイトハウスからの十全の支持を得て、シリアに対するいわゆる“プラン B”を推進しようとしている。

ペンタゴンの報道官 Peter Cook が月曜日に宣言したように、米軍は「我々のもつあらゆる機会をとらえて、地方のパートナーたちと協働しながら、この作戦をどのように促進できるかを考えていく」つもりでいる。

アメリカの停戦支持は、結局のところ、初めから戦略的な策動であって、ロシアに支持されたシリアとイラン軍が、アメリカに支持された反乱軍をますます敗走させ、ワシントンが 2001 年に始めた政権転覆作戦を挫折させようとする状況下にあって、米軍が力を新たに蓄えるための時間を稼ぐのが狙いだった。

イラクとシリアにおける、アメリカの地上戦争のエスカレーションは、2014 年に **Operation Inherent Resolve**（内在決議作戦？）として始まった両国土でのアメリカの新たな戦争に、アメリカの“地上軍”は使わないという、オバマ大統領の繰り返された約束にもかかわらず起こったもので、民主党体制の全面的な支持によって実行されている。

その最も新しいエスカレーションは、今週、米民主党の大統領候補ヒラリー・クリントンとバーニー・サンダースが、ともにこれを歓迎した。

クリントン上院議員はこれまで、ホワイトハウスがもっと“健全な”戦争をシリアで行わないことを批判し、“飛行禁止ゾーン”の設置を含めて、米空軍と地上軍の戦争を要求していたが、彼女は、ホワイトハウスが、シリアでのコマンド作戦の拡大を許可することを支持する、選挙戦声明を出した。

昨年9月、クリントンは、外交問題評議会（CFR）で好戦的な演説をし、シリアでは「もっと効果的な共同空中作戦が必要だが、それで十分ではない」と宣言した。

「空爆は地上軍と一緒になければならないでしょう」とクリントンは言って、シリア全領空に“飛行禁止ゾーン”を押し付けるとともに、“安全地帯”を切り取るためには、地上の侵略が必要だと力説した。

中東、アフリカ、およびアジアを通じて、一般にアメリカの戦争行動を拡大するのに加えて、クリントンの“ISISを敗退させるプラン”は、地球全体に、社会メディアの監視を拡大することを要求している。

サンダーズ上院議員自身の、この政権の政策支持は、彼がいかなる意味でも反戦的候補者ではなく、もう一人の帝国主義的政治家であることを明らかにしている。

「大統領（オバマ）は、アメリカの部隊にムスリム軍団を訓練させ、彼らが必要とする軍事的装備を供給させると言っている。私はこのやり方を支持する」と、サンダーズは今週、メディアに語った。

シリアにおけるアメリカの地上戦争の拡大準備は、その十分な性格については、2016年の大統領選挙後まで明らかにされない公算が強いが、それは東欧、南シナ海、そしてユーラシア全体でのアメリカの戦争準備の中で起こっており、第三次大戦のいや増す脅威をつくり出している。

読者コメントの一例：米政権は宇宙のエイリアンによって支配されている。シリアのISIS掃討はロシアにやらせるがよい。たちまち片付くだろう。アメリカはシリアに何の用もない。シリアのどんな米軍も国際法に違反している。ロシア軍は認められた合法的政府の要請によってシリアにいる。シリア政府は国連の前へ出て、アメリカを不法侵略者として呼び出すだろうか？ 国連はアメリカをシリアから退去させ、退去の日限を設けるだろうか？ セルビアのリーダーが国際刑事裁判所に出られたのであれば、オバマもそれができるはずだ。